

2022年度学校自己評価

東海大学付属諏訪高等学校

5～1は教員評価 (5よい 4おおむねよい 3どちらともいえない 2やや不十分 1不十分)

分野	重点目標	成果と課題	2022 評価	改善策
学校運営	年間教育目標の実践と点検・現状における課題の解決・改善に努める	学校の施設設備と教育環境の充実については、生徒・保護者・教職員ともに最高の評価がついている。近年実施している施設充実の取り組みが評価されたものと捉えている。今年度当初、新型コロナウイルス感染予防対策のため様々な学校行事の変更を余儀なくされたが、学校の対応には生徒保護者共に多くが肯定的に捉えていた。こうした変則的な学校運営に関しては、丁寧な情報発信により生徒保護者の理解を得ることができたと考えている。集団での活動に制限がある中でも、可能な限り学校行事と部活動に取り組み、特別活動の実施には理解を得られている。	4.0	新型コロナウイルス感染拡大により、年間教育目標の授業計画と行事計画を変更することになったが、可能な限り当初計画を活かすことを心掛けた。その都度丁寧に発信したことが生徒保護者の理解を得られたものと捉え、今後活かすべきことである。学校評価アンケート、授業評価アンケートおよび学校関係者評価委員会、三者懇談会、PTA地区懇談会などの意見を大切に、教員間での議論を活かして、指摘された改善点について担当部署で検討を行いフィードバックする。そして、学校評価の趣旨に沿って学校運営方針を定め、教職員間で結束して遂行に努めたい。
学習指導	学習意欲喚起と学力向上 きめ細かな学習指導	電子黒板付きプロジェクターを全普通教室に設置して6年が経過したが、プロジェクターの授業での活用は普通になってきたことから授業の工夫に対する評価は高い。タブレットを活用した学習展開の中ではICT教育による授業の工夫は生徒、保護者、教員ともに最高値の評価であった。この取り組みは、コロナ濃厚接触による自宅待機生徒やコロナ感染予防のためのオンライン授業に活かすことができた。学習が楽しい、学力がアップしたと答える生徒が増加していることから、教育の工夫に対する成果が表れていると考えられる。	3.6	毎年課題であった家庭学習の定着については、今年度は評価が上がっている。コロナ禍によるオンライン授業を積極的に取り入れたことも家庭学習の習慣化に繋がったのではないかと。学習への取り組み姿勢、特に学習が楽しい、学力が向上したという回答は、前年に比べて向上している。今後は、さらにICT機材の活用を研究し、より効果的な方法を提示する。そして、ICT機器を活用した生徒参加型の双方向の授業展開を目指したい。
クラス指導	基本的生活習慣の確立と心身の健全化 集団における役割と協調性の涵養	「学校が楽しい」という項目は生徒・保護者共に高い評価である。生徒同士の人間関係に関しても、生徒、保護者、教員ともに高い評価であった。穏やかな学校生活を送っている表れと捉えたい。学校はこれに甘んじることなく、さらに充実した学校生活が送れるように教育環境を整えなければならない。生徒の悩みや問題にたいする対応は、より敏感な対応が求められる。生徒の異常に対する感度を高め、悩みの相談にのる体制を強めたい。教職員は現状に満足することなく、安心できる学校、より健全な人間関係を目指すように努めたい。	4.0	生徒の良好な人間関係については大きく向上している。これは、教員自身が生徒の人間関係の構築に努め、生徒の悩みに対応していると多くが回答したことに対応している。この傾向を受けて、教員は生徒の人間関係や悩み、さらにきめ細かく対応することが求められる。担任を中心にクラスの生徒との会話を増やし、信頼関係を強める。生徒の状況を的確に把握し、悩みのある生徒の早期発見と問題解決に向けた取り組みに務める。集団の中での生徒の意識を見るQ-U検査結果や学校生活アンケートを効果的に利用して予防的対応に務め、安心安全、いじめのない集団を保証したい。そして、互いを尊重し合える豊かな人間関係を育成する。
生活指導	規範意識を定着させる生活指導 安全安心、秩序ある学校生活	今年度も、新型コロナウイルスの全国的な感染拡大に伴って、感染予防対策の徹底に終始した。教員の指導が届く校内での生活は当然のこと、登下校や自宅での生活、長期休暇の生活など、全員が感染予防に配慮した。そのため、昨年に引き続いて行事や部活動を制限することになったが、その中でもできる限りの活動を行った。挨拶の励行や校外でのマナーおよびに頭髪・服装などの身だしなみに関しては、生徒・保護者・保護者ともに最高の評価をしている。清掃美化については、生徒の評価は高い。清掃を通して、共同作業の大切さや美化意識の向上を身につけたい。	4.3	いずれの項目も高い評価であり、生徒の規範意識が育っていることを表している。頭髪・服装指導には、教員集団が共通認識を持ち、統一した視点で指導することが必要である。また、生活の変化に伴って時代に合った校則の見直しを求める声もあるため検討したい。清掃活動に表われる勤労意識は良い点としてさらに伸ばすよう教員が率先して取り組む。挨拶の励行とけじめあるきびきびした行動は、学校内外を問わず自然に行えるようになり、定着しつつある。こうした行動を本校の特徴と捉え、さらに推進する。生徒間で健全で豊かな友人関係を築けるよう常時指導を続ける。
進路指導	生徒個人に応じた目標設定と進路希望の実現	大学短大への進学が70%、専門学校を含めた進学が90%であることより、進学に関する認識は生徒保護者ともに高い。進路情報の発信と進路指導については、生徒・保護者・教職員は前年度と同様に高い評価となり、満足と感じているの評価であった。生徒の多様な進路希望に沿って、それぞれの進路に応じたきめ細かな進路指導と進路相談をより充実させ、保護者へもさらにきめ細やかな発信に心掛けたい。進路希望の多様化に応えるよう、受験での進学希望者への学力向上のための講座は継続実施する。	4.1	進路に関する情報発信と面談指導は、生徒保護者ともに高い評価である。今年度も感染症予防のため、保護者の来校を控えてオンラインでの面談や進路情報の発信を行った。その取り組みが好意的に受け入れられたと考える。これは、今後の三者懇談のあり方と進路情報の発信の方法に資する材料である。生徒の多様な進路希望には、学級担任・進路指導担当・指導的教員が連携して生徒の進路希望の実現を目指す。併せて、保護者への連絡も密にして、学校・家庭での連携した指導を目指す。
特別活動	生徒会活動と部活動の活性化	今年度も部活動には制限があったが、部活動顧問の指導に対しては生徒・保護者・教職員共に高い評価をしている。感染症予防対策について多くの生徒保護者が肯定していることから、感染症予防に配慮しての活動が理解されていると考える。今後とも指導する側の独断に陥らず、生徒の心身の成長を見守りつつ安全な部活動運営を心掛けたい。建学祭等の集団で行動する学校行事を生徒会行事を考えるなど、限られた中でも工夫する姿勢が生まれてきた。	4.1	部活動は、文武両道を目指す本校の教育目標の重要な活動と捉え、従来通り積極的に推進し、種目の成績とともに人間的な成長を目指す。文化部の指導では、部員数を増やす取り組みを続けたうえで、活発に活動を行い、その成果を積極的に地域などへ発表を図る。「建学祭」「東海文化フェスティバル」は文化部発表の場として発展させたい。そして、部活動以外でも率先して行動できる人間を目指したい。生徒会活動については、多くの生徒が自主的に関わり達成感が得られるよう、生徒会主催行事への積極的な参加を促す。
研究・研修	授業改革の推進とその発信。教員の資質向上への取り組み。地元地域との積極的な連携と外部講師による体験的学習の推進。	ICT教育による授業効率の向上を目指し、6年前に電子黒板機能付きプロジェクターを全普通教室に設置し、校内無線LANを完備して環境を整えた。環境整備に伴い、ICT機材を用いた通常授業が行われてきたため、地域でのコロナ感染拡大に伴ってオンライン授業に対応することができた。外部との連携が取りにくい状況の中で、理数科の高大連携では大学講師によるオンライン講義を実施するなど、探究的な学習を継続推進することができた。		諏訪地区での先進的なICT教育の取り組みを発展させて、生徒参加型のアクティブラーニングを採り入れた授業を研究し実践する。そのために、教科内での研究授業を積極的に推進し、研修会への参加など教員自身の資質向上に務める。Web教材を活用した授業または家庭学習課題など、ICT教育の推進を継続する。また、「サイエンスフェスタinちの」「東海文化フェスティバル」など校外でのイベントに積極的に取り組み、市民との交流を進めたい。諏訪から世界を目指す海外の交流・研修を積極的に推進し、継続した交流を続ける。